

「最近、3歳の息子が「LOVOT（ラボット）」にはまっています。」（船越）

LOVOT は、人に寄ってきたり、抱っこをねだったりする小型のコミュニケーションロボットで、京都のヨドバシカメラへ買い物に行くたびに、「ラボットを見に行く！」となり、真っ先に向かうのがお決まりのコースです。

最初は少し怖がっていたのですが、最近では自分から近づき、抱っこまでさせてもらえるようになりました。

LOVOT のこちらを見る仕草や、近寄ってくる様子は、本当によくできていて、大人でもつい愛着が湧いてしまいます。



私自身、最初は「子どもがそこまで夢中になるものなのかな」と思っていました。しかし実際に見ていると、ただ動くだけではなく、視線を合わせたり、甘えるように寄ってきたりする姿に、不思議とこちらも癒されてしまいます。機能や性能だけではなく、“親しみやすさ”や“安心感”は、人との関わりの中で大切な要素なのだと改めて感じました。仕事でも、「相談しやすい」と思っていただけの存在でありたいものです。

知っところ! 「税」のマメ知識

今月のマメ知識：【「少額減価償却資産の特例」の拡充・延長について】

青色申告を行う中小企業者（資本金1億円以下の法人）等が、一定額未満の資産を取得した際に全額損金算入できる制度が「少額減価償却資産の特例」です。2026年度税制改正により、この制度の大きな見直しと延長が決定されました。まず適用期限が3年間延長され、2029年3月31日までとなりました。注目すべきは取得価額基準の引き上げでしょう。近年の物価上昇を踏まえ、上限が現行の「30万円未満」から「40万円未満」へ



と拡大されました。これにより、これまで対象から外れていたパソコンなどの備品も即時償却しやすくなります。一方で、対象となる企業の範囲が見直されて適正化されました。常時使用する従業員数が「400人を超える法人」が対象外とされ（現行は500人以下）、より地域の中小企業に重点を置いた制度となっています。なお「年間300万円」という合計限度額は維持されました。

設備投資の計画を立てる際は、この新しい基準をぜひご活用ください。

世界の偉人伝

今月の偉人：【葛飾北斎】

葛飾北斎は江戸時代後期の浮世絵師です。幼少期から絵を描き始め、19歳で勝川派の頭領に師事、翌年画界に登場しました。歴史上の人物や風景、動植物、自然現象に至るまで、森羅万象を描き続け、作品は3万点を超えています。版画や肉筆浮世絵などジャンルは多岐にわたり、欧州美術界にもジャポニスムブームを巻き起こしました。代表作である「富嶽三十六景」の制作は70代。「90歳では奥義を究め、100歳になればまさに神妙の域に達する」と望むも、満90歳での大往生でした。

気軽に Let's 英会話

今月のキーワード：【federation】

6月11日からFIFAワールドカップが開催されますが、国際サッカー連盟（FIFA）は“Federation Internationale de Football Association”の略でフランス語。英語は“International Association Football Federation”です。“federation”は「連盟・連邦」の意味で、形容詞形は“federal”。

“FBI: Federal Bureau of Investigation”「連邦捜査局」、 “FAA: Federal Aviation Administration”「連邦航空局」、 “FRB: Federal Reserve Board”「連邦準備制度理事会」は、よく見聞きしますね。



今月のトピック：【寝台列車】

新幹線の進化や格安航空会社の台頭で絶滅寸前だった寝台特急が、復活の兆しです。宿泊費の高騰や推し活遠征の増加により、移動と宿泊が一体化した夜行列車が再評価される一方、プレミアムな個室で移動時間そのものを特別な体験として楽しむ豪華寝台列車も人気です。車窓と共に過ごすひとときを求め、限定運行に予約が殺到しています。



才人の言葉

英雄とは、自分
ができることを
した人である。

フランスの作家であるロマン・ロランの言葉。自分のできることをしない、またできもしないことを頑張ることは同じくらい愚かである。できることをやればいい。

割れたガラスの微細な破片は、食パンでペタペタ押さえて回収するのが名案です。柔らかな繊維の隙間に破片が入り込むため、粘着テープより安全かつ確実に小さな破片まで絡め取れます。掃除機でも吸いきれない粉状のガラス対策に最適な賢い生活の知恵です。

知恵
得る
知恵
代表

振り向けば あそこにも ここにも 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【データドリブンで見えるもの】

「データドリブン」という言葉をよく聞くようになりました。横文字だと難しく聞こえますが、意味はいたってシンプルです。ドリブンとは「～に動かされる、～を動力源にする」ということ。つまり、経験や勘だけでなく、客観的な数字（データ）を判断の材料にして動かすことを指します。現場で培った直感は会社にとって大きな武器ですし、長年の勤で成し遂げてきた人は「数字なんて後からついてくる」と考えるでしょう。しかし、時代や環境が激しく変わる今、直感だけに頼るのは立ち込める霧の中をライトなしで爆走するような危うさも秘めています。そこで今、データドリブンという考え方が注目されるようになったのです。例えば、飲食店で「最近、客足が落ちた気がする」と感じたとします。ここで「よし、新メニューの開発だ！」と直感で動く前に、少しだけ数字をのぞいてみる。客数が減ったのか、客単価が下がったのか。減ったのは新規客か、それとも常連客か。数字から常連客の来店頻度が下がっているという事実が見えたなら、打つべき手は新メニューの開発ではなく、既存客への感謝を含めたご案内や接遇の再確認かもしれません。データドリブンとは決して数字に支配されることではありません。自分の直感が正しいかどうかを数字で裏付けし、迷いなく決断を下すための自信を持つことです。まずは週に一度、手元の日報や売上データをじっくり眺める時間を持つ。数字による客観的な事実を味方につけることで、経営者の決断はより力強くなり、共に働く従業員にも納得感のある迷いのない言葉へと変わっていくでしょう。



トナリの本棚

【北極星】

絵本とビジネス書のベストセラー作家である西野亮廣の最新作。変化の多い時代に「どう働くか？」をわかりやすく解説しています。注目を集める一冊です。



船越税理士法人

〒620-0054

京都府福知山市末広町 1-1-1 中川ビル 3 階

TEL: 0773-22-3708 FAX: 0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎◎◎